

## 特集にあたって

2017年のえひめ国体開催まで5年となり、開催に向けての各種計画の策定や具体的な準備作業が進んでいます。本年7月には、「えひめ国体」の開催が正式に内定し、愛称「<sup>えがお</sup>愛顔つなぐえひめ国体」とスローガン「君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え」も決まりました。基本構想に掲げられた「手づくりの国体」「実になる国体」「身の丈にあった国体」「ふれあいの国体」「愛媛らしさあふれる国体」の5つの理念のもとに、愛媛の魅力を全国に発信する国体が開催されることが期待されます。

しかしながら、過去の開催国体を見ると、国体の華やかな11日間が終了すれば、選手の育成や競技の普及が絶ち切れになったり、その後の財政負担や新たに整備した施設の有効利用などが問題となっている事例が散見されます。一方、国体やワールドカップなどの大会を地域のスポーツ振興につなげている自治体や、行政・地域住民・競技団体・企業が連携してスポーツを核とした地域振興に取り組んでいるケースもあります。

今回の特集では、えひめ国体の意義を改めて整理するとともに、全国事例や県内の取り組みを紹介することで、国体を契機とした地域のスポーツ振興を通して地域の活性化の取り組みが促進されることを願っています。

編集責任者

所長（専務理事） 森 敏明